



倉敷市真備町の現在の様子。町の一角に水につかった家財が集められている

## 西日本豪雨災害

# 災害対策最優先の政治に

## 自治体労働者の力あつめ 復興支援を



大阪府職労災害救援ボランティア（8月3日～4日）より 「避難所の小学校でかき氷やジュースを提供し、喜ばれました」



記録的な災害となった7月の西日本豪雨では、死者220人、行方不明者10人、全壊家屋5443棟、半壊6600棟にものぼり、今も避難所には3421人が避難生活を続けています（消防庁発表8月7日時点）。  
今、全国各地からボランティアが駆けつけています。大阪自治労連も災害救援カンパやボランティアなど支援行動をよびかけている中、単組独自のボランティア派遣などが取り組まれています。  
(2面に関連記事)

大阪自治労連は  
ボランティア支援行動に  
取り組みます

- ①職場での災害救援カンパ
- ②ボランティア支援行動  
(次回の詳細が決まり)  
(次第お知らせします)

堺市立病院機構労働組合  
書記長

坂本 幸一さん

(看護師)



5月10日の大阪自治労連中央委員会  
で入りを手に発言する坂本さん

坂本幸一さんは看護師歴23年目の43歳。2か所の民間病院をへて、堺市立総合医療センターで働き始めて4年目です。今年4月から労働組合の専従として、奮闘している書記長の坂本さんにお話を聞きました。

### なぜ今の職場で働こうと思ったのですか

三次救急(一刻を争う重篤な救急患者を対象とする)病院を一度は経験したかったからです。それまでの民間病院でも二次救急までは経験していません。「働く＝勉強でもある」と思っています。病院にはドクターカーもあり、一日2〜3件は発動しています。2交代ですが、働きがいをもって働いています。

### 専従を引き受けた理由を教えてください

先輩から声かけられて役員になり、その後執行委員を2年経験しました。専従者は何人か候補があがっていたんですが、経験や年齢的な点から「自分がやらなくてはいけないな」と思ったからです。しかし、思っていた以上に、いろいろな細かい実

務があつて、交渉や定期大会の準備も大変です。

### 書記長として大切にしたいことは

組合員が50%を超えるかどうかで、労働条件の決定に大きく影響します。今も50%は超えています。だから、組合員の期待に応



みんなが話せる雰囲気  
大切にしている執行委員会

えたい。大切な組合費をもらっているのだから。

まず、組合員が困ったことや気づいたことがあつて組合事務所に来た時に、すぐ対応できるようにしたいです。忙しい中で来てくれるのでその時を逃せば、期待に応えられず組合への期待感がなくなってしまうと思うからです。

### 組合員を増やすためにどうしますか

自分ができることからやっていきたい。議案書も難しいことばかり書いてあると引いてしまふので、柔らかい言葉で伝える工夫をしました。加入募集のピラも若い人から意見を聞いてつくりました。若い新しい人を中心に夏から準備して、秋にも加入の呼びかけをする予定です。定期大会も、もっと入りやすく参加しやすい雰囲気にして楽しくしたい。機関紙「あゆみ」も見やすくしたい。新しい執行部は初めての人が半分です。執行部の若い人たちが育てるために、おしつけはいやなので、堅苦しい雰囲気ではなく、話し合いを中心はどう思うのか、みんなに意見を聞けるような執行委員会にしていきたいです。